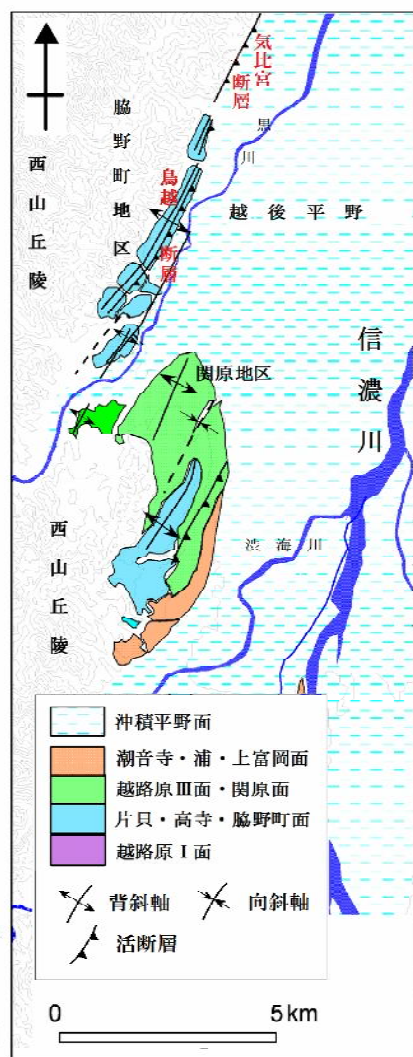
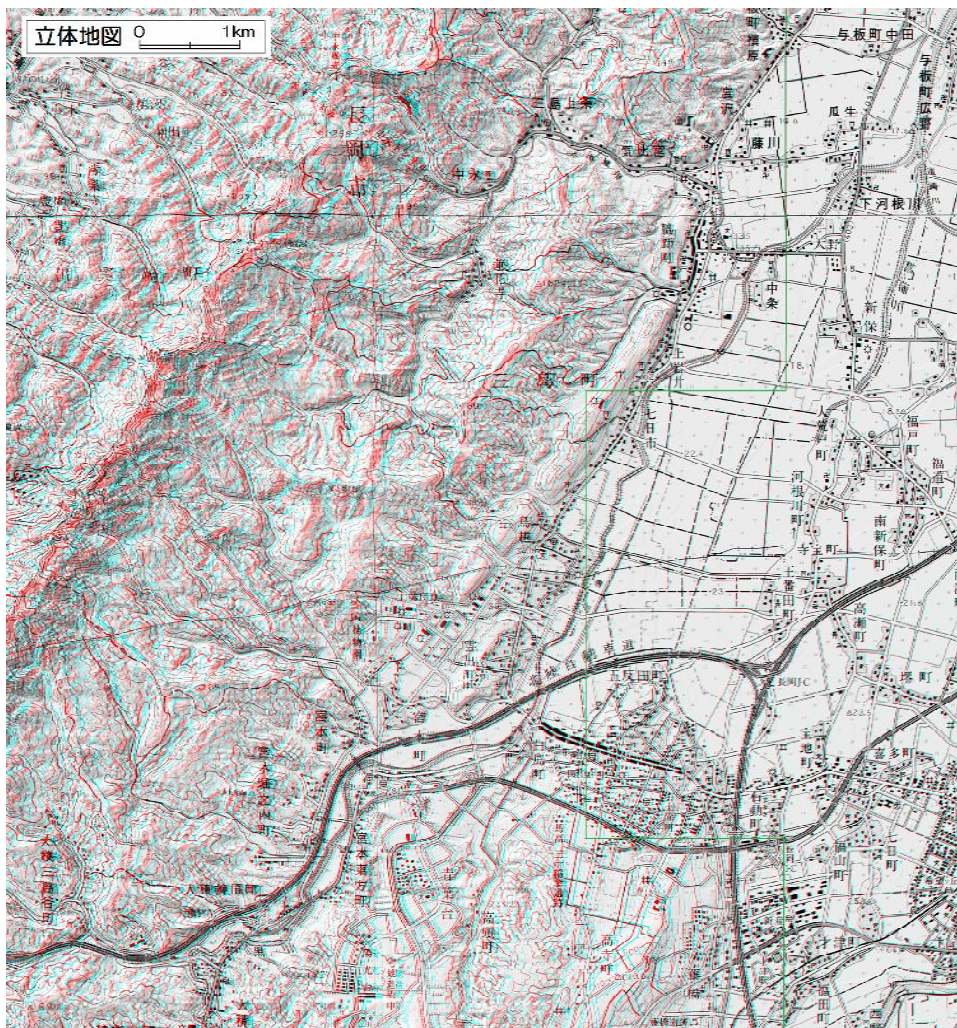
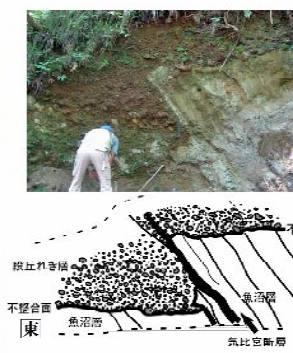


4. 新しい地殻変動で湾曲した段丘面 (長岡市脇野町～関原町付近)



図A 空から見た脇野町付近の地形と断層分布



図C 段丘面を变形させた気比宮断層

図B 段丘分布と段丘面区分

長岡の西山を東側から見ると、脇野町から鳥越付近にかけて、西山丘陵の手前に一段低いなだらかな小さな丘を確認することができます(立体地図, 図A)。関原付近を北方から見ても、南方の越後丘陵公園に続く山並みの手前がゆるやかな凸状をした台地になっていることがわかります(立体地図)。

これらなだらかな小丘やゆるい台地の表面は信濃川の河原と同じ石ころからできていて、かつては信濃川の河原や氾濫原(はらんげん)だったと考えられます。それが10万年前ないし5万年前に隆起し

て信濃川の氾濫原からは一段高い台地(河岸段丘)に変わり(図B), その際の(およびその後の)地殻変動で段丘面がかまぼこのような形に(脇野町付近), またはゆるやかに波打つように(関原町付近)変形をしたのです。

脇野町付近では鳥越断層や気比宮断層が段丘面を変形させています(図A, C)。この断層運動は西山丘陵側を上昇させる一方, 平野側を沈降させるもので, これからも段丘面を変形させていくものと思われます。